

感染状況・医療提供体制の分析 (3月2日時点)

| 区分 | モニタリング項目 ※①～⑤は7日間移動平均で算出 | 前回の数値 (2月23日公表時点) | 現在の数値 (3月2日公表時点) | 前回との比較 | これまでの最大値 | 項目ごとの分析 | |
|--------|---|-------------------------|-----------------------|----------|-------------------------|---|-------------------------|
| 感染状況 | ①新規陽性者数※1 (うち65歳以上) | 13,056.7人 (1,267.6人) | 10,690.1人 (904.0人) | ↓ | 18,024.7人 (2022/2/8) | 総括コメント: 大規模な感染拡大が継続している | |
| | ②#7119 (東京消防庁救急相談センター)※2における発熱等相談件数 | 98.4件 | 97.9件 | → | 209.7件 (2021/8/16) | 1万人規模の新規陽性者が発生する危機的な感染状況のさらなる長期化が懸念される。歓送迎会、卒業パーティー等、年度末前後のイベントによる人の移動の増加やオミクロン株BA.2の影響で、もし増加比が上昇すれば、感染が再拡大する恐れがある。 個別のコメントは別紙参照 | |
| | ③新規陽性者における接触歴等不明者※1 | 数 | 7,700.0人 | 6,359.7人 | ↓ | | 11,659.9人 (2022/2/8) |
| | | 増加比※3 | 85.5% | 82.6% | ↓ | | 1,101.5% (2022/1/9) |
| 検査体制 | ④検査の陽性率 (PCR・抗原) (検査人数) | 38.5% (19,367人) | 36.0% (16,897人) | → | 41.2% (2022/2/12) | | 総括コメント: 医療体制がひっ迫している |
| 医療提供体制 | ⑤救急医療の東京ルール※4の適用件数 | 239.9件 | 227.0件 | → | 264.1件 (2022/2/19) | 救急患者の入院受入れが、極めて困難な危機的状況が続いている。入院患者数及び重症患者数に占める高齢者の割合が、高い値で推移しており、この状況が長期化すれば、医療従事者への負担も長期化し、医療提供体制がさらにひっ迫する。 個別のコメントは別紙参照 | |
| | ⑥入院患者数 (病床数) | 4,172人 (6,599床) | 3,808人 (6,815床) | → | 4,351人 (2021/9/4) | | |
| | ⑦重症患者数 人工呼吸器管理 (ECMO含む) が 必要な患者 (病床数) | 80人 (397床) | 68人 (471床) | ↓ | 297人 (2021/8/28) | | |

※1 都外居住者が自己採取し郵送した検体による新規陽性者分を除く。
 ※2 「#7119」…急病やけがの際に、緊急受診の必要性や診察可能な医療機関をアドバイスする電話相談窓口
 ※3 新規陽性者における接触歴等不明者の増加比は、絶対値で評価
 ※4 「救急医療の東京ルール」…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

【参考】VRSデータによる都民年代別ワクチン接種状況 (3月1日現在)
 (※①②③は接種回数)

| 都内全人口 | | | 接種対象者(12歳以上) | | | 高齢者(65歳以上) | | |
|--------|--------|--------|--------------|--------|----|------------|--------|--------|
| ①78.8% | ②78.2% | ③21.8% | ①86.9% | ②86.2% | ③- | ①92.7% | ②92.4% | ③58.3% |

総括コメントについて

1 感染状況

<判定の要素>

○ モニタリング項目に加え、地域別の状況やワクチン接種の状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、感染状況を総合的に分析

<総括コメント (4段階)>

- 大規模な感染拡大が継続している／感染の再拡大の危険性が高いと思われる
- 感染が拡大している／感染状況は拡大傾向にないが、警戒が必要である
- 感染拡大の兆候がある (と思われる)／感染状況は改善傾向にあるが、注意が必要である
- 感染者数が一定程度に収まっている (と思われる)

2 医療提供体制

<判定の要素>

○ モニタリング項目に加え、療養者の年齢構成、重症度、病床の状況やワクチンの接種状況等、モニタリング項目以外の指標の状況も含め、医療提供体制を総合的に分析

<総括コメント (4段階)>

- 医療体制がひっ迫している／通常の医療が大きく制限されている (と思われる)
- 通常の医療を制限し、体制強化が必要な状況である／通常の医療が一部制限されている状況である
- 体制強化の準備が必要な状況である／通常の医療との両立が可能な状況である
- 平時の体制で対応可能であると思われる／通常の医療との両立が安定的に可能な状況である

(注) 通常の医療：新型コロナウイルス感染症以外に対する医療 (がん、循環器疾患等の医療)

医療提供体制の分析（オミクロン株対応）（3月2日公表時点）

| モニタリング項目 | | 前回の数値 (2月23日公表時点) | 現在の数値 (3月2日公表時点) | これまでの 最大値 ^{※5} |
|----------|--|-------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------|
| 指標 | (1) オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床 使用率 ^{※1} | 35.7% (268人/750床 ^{※2}) | 27.0% (217人/804床 ^{※2}) | 36.3% (2022/2/22) |
| | (2) 入院患者のうち酸素投与が必要な方の割合 | 22.4% (934人/4,172人) | 23.8% (908人/3,808人) | 25.8% (2022/2/16) |
| (参考指標) | (3) 病床使用率 (新型コロナウイルス感染症患者のための病床全体のひっ迫度を把握) | 56.9% (4,045人/7,109床) | 51.1% (3,691人/7,229床) | 71.2% (2021/8/31) |
| | (4) 救命救急センター内の重症者用病床使用率 ^{※3} (救命救急医療体制のひっ迫度を把握) | 66.7% (466人/699床) | 75.6% (456人/603床) | 75.6% (2022/3/2) |
| | (5) 救急医療の東京ルール ^{※4} の適用件数 ^{※4} (救急医療体制のひっ迫度を把握) | 239.9件 | 227.0件 | 264.1件 (2022/2/19) |

※1…特定集中治療室管理料又は救命救急入院料を算定する病床の患者数及び人工呼吸器又はECMOの装着又はハイフローセラピーを実施する患者数の合計/特定集中治療室管理料又は救命救急入院料を算定する病床数及び人工呼吸器又はECMOの装着又はハイフローセラピーを実施可能な病床数の合計

※2…病床の使用状況や患者の重症度により変動

※3…救命救急センター内で特定集中治療室管理料又は救命救急入院料を算定する全ての患者数の合計/救命救急センター内で特定集中治療室管理料又は救命救急入院料を算定する全ての病床数の合計

※4…救急隊による5医療機関への受入要請又は選定開始から20分以上経過しても搬送先が決定しない事案

※5…(1)(2)(4)は2022年2月2日公表時点以降の最大値

【参考】国の新しいレベル分類のための指標（3月2日公表時点）

| 現在のレベル | | レベル分類指標 | | | | |
|--------|--|--------------------|---|---|--|---|
| レベル2 | | レベル0 (感染者ゼロレベル) | レベル1 (維持すべきレベル) | レベル2 (警戒を強化すべきレベル) | レベル3 (対策を強化すべきレベル) | レベル4 (避けたいレベル) |
| 都の指標 | | - | - | 3週間後の病床使用率が確保病床数(7,229床)の約20%に到達 | 3週間後に必要とされる病床が確保病床数(7,229床)に到達又は病床使用率や重症者用病床(510床)使用率が50%超 | 確保病床数を超えた療養者の入院が必要 |
| 国の目安 | | 新規陽性者数ゼロを維持できている状況 | 安定的に一般医療が確保され、新型コロナウイルス感染症に対し医療が対応できている状況 | 段階的に対応する病床数を増やすことで、医療が必要な人への適切な対応ができている状況 | 一般医療を相当程度制限しなければ、新型コロナウイルス感染症への医療の対応ができない状況 | 一般医療を大きく制限しても、新型コロナウイルス感染症への医療に対応できない状況 |

| 都の状況 | | 前回の数値 (2月23日公表時点) | 現在の数値 (3月2日公表時点) |
|------|-----------------------|--------------------------|--------------------------|
| 指標 | 病床使用率 | 56.9% (4,045人/7,109床) | 51.1% (3,691人/7,229床) |
| | 重症者用病床使用率（都基準） | 14.3% (73人/510床) | 12.4% (63人/510床) |
| | 3週間後の必要病床数（国予測ツール）（注） | - | - |

(注) 増加傾向がみられない場合には、国予測ツールに基づく当該指標によるモニタリングを実施せず

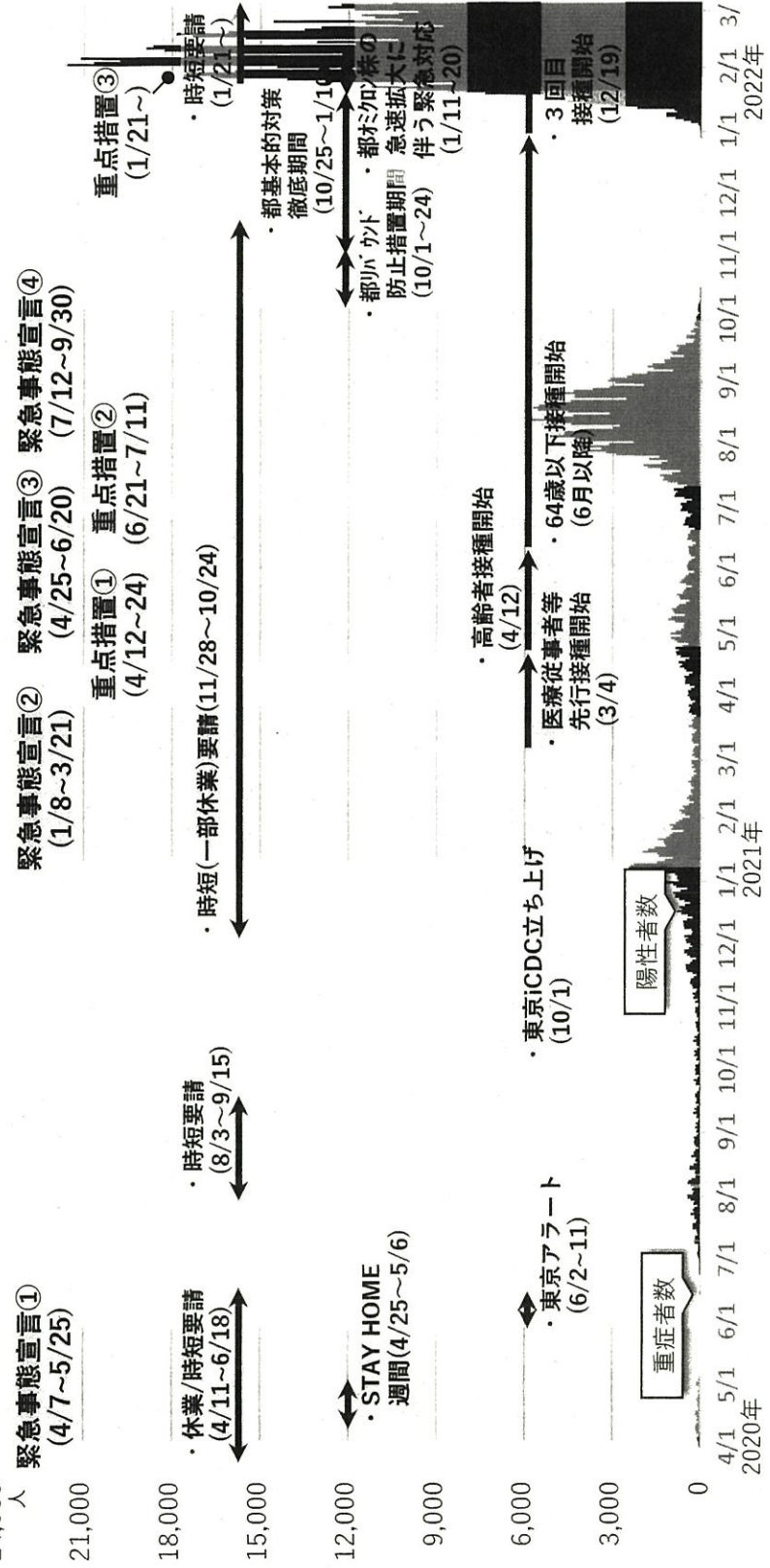
| | | |
|--------------------|------------------------|------------------------|
| 【参考】重症者用病床使用率（国基準） | 48.4% (711人/1,468床) | 42.2% (619人/1,468床) |
|--------------------|------------------------|------------------------|

都内の陽性者数等の状況 (令和4年3月4日時点)

| | | | |
|-----|---------------------------------|------|---------------------|
| 陽性者 | 10,517人 | 重症者 | 70人 |
| 入院 | 3,535人 / 7,229床 (病床利用率48.9%) | 宿泊療養 | 3,439人 / 約13,000室確保 |

〔オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率 26.6% (214人/804床)〕

※オミクロン株の特性を踏まえた重症者用病床使用率、宿泊療養者数は3月3日時点



国立市医師会長（さくら通りクリニック院長） 春日井先生コメント

令和4年2月28日

① 市内の感染状況について（診療の場面から、ステルスオミクロンについて）

第6波はピークアウトしたと耳にするが、クリニックへの電話件数も減らない、PCR検査の陽性率も下がらず、実感としてピークアウトしたとは思えない状況にある。

学校、保育園等で子どもが感染し、40代の親世代が家庭内感染しているご家庭が多い印象である。

② ワクチン接種について

とにかく早く接種してもらいたい。2月末で対象者の3割が接種済みではスピードが遅い。かかりつけの患者さんたちへの接種はほぼおわり、接種開始後1ヶ月が経過し、自院での予約枠は埋まらなくなってきている。9月以降に2回目を接種した人たちがこれから接種対象になるが、需要はあるであろう。

③ みなし陽性、オンライン診療について

家族に感染者がいる場合は、みなし陽性の診断をしている。だが、その先の治療をする際にはPCR検査が必要となる認識でいる。また50歳以上の方は、みなし陽性の診断ではなくPCR検査が必要だと考えるが、それ以下の年代の方は感染した場合も普通の風邪と大きく変わらない症状で済んでいる傾向にあるので静養を勧めている。

オンライン診療は、パルスオキシメーターがなければ血中酸素濃度が測定できず診療にならない。そこが課題となりオンライン診療は進んでいない。

4市のPCR検査センターは木曜日、土曜日に開設している。国立市民も利用できる。医療機関を受診し「PCR検査センターで検査を受けたい」と言ってもらえれば、つなぐことができる。

④ 今後気を付けるべきこと

やはり手洗いが重要である。手指消毒をすれば十分ではなく、手洗いの重要性を感じている。

高齢者は2年と長引いているコロナ禍において、過度に怖がって外出をしないことは避けるべきである。コロナが落ち着いたら山登りができる程度の体力を持てるように、人混みは避けながら散歩等の運動は継続してほしい。

3総防管第4239号

令和4年3月4日

各区市町村長 殿

東京都知事

小池 百合子

(公印省略)

基本的対処方針に基づくイベントの開催制限、
施設の使用制限等に係る留意事項等について

各区市町村におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に特段の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和4年3月4日付けの内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室による事務連絡において、今般のまん延防止等重点措置の期間延長等に伴い改定された基本的対処方針に基づくイベントの開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等が示されました。

その概要は、①イベントの開催制限（人数上限、収容率等の規模要件に沿った開催要請及び「対象者全員検査」の実施による人数上限の緩和等）、②施設の使用制限（飲食店等に対する営業時間短縮要請、酒類提供に関する要請、同一グループの同一テーブルへの案内を4人以内とすることについての要請及び「対象者全員検査」の実施による人数制限の緩和、集客施設等に対する「入場者の整理等」の要請等）、③外出の自粛（不要不急の都道府県間の移動自粛要請等）等について、示されております。

都としては、上記基本的対処方針及び事務連絡を踏まえ、3月4日開催の東京都新型コロナウイルス感染症対策本部（以下「対策本部」という。）において、3月7日から3月21日までを期間とする「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置」を別紙のとおり決定しております。

各区市町村におかれましては、関係機関等への周知及び対応について、御協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

なお、取扱いに変更がある場合は、対策本部における決定後、改めてお知らせいたします。

新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置

令和4年3月4日
東京都

1. 新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置

(1) 区 域

都内全域

(2) 期 間

令和4年3月7日（月曜日）0時から3月21日（月曜日）24時まで

(3) 対応の概要

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、以下の要請を実施

①都民向け

- ・ 不要不急の外出は自粛し、混雑している場所や時間を避けて行動すること
- ・ 営業時間の変更を要請した時間以降、飲食店等のみだりに出入りしないこと 等

②事業者向け

- ・ 施設の使用制限（営業時間の短縮等）
- ・ 催物（イベント等）の開催制限 等

2. 都民向けの要請

(外出・移動等)

- 不要不急の外出は自粛し、混雑している場所や時間を避けて行動すること
(新型インフルエンザ等対策特別措置法第24条第9項)
- 不要不急の都道府県間の移動は、自粛すること(法第24条第9項)
ただし、「対象者全員検査」制度(※)を活用し、検査結果が陰性であった場合を除く

※「対象者全員検査」制度

= 緊急事態措置やまん延防止等重点措置等により東京都が人数制限等を要請した場合に、対象者の陰性の検査結果を確認することにより、感染リスクを低減させ、飲食店やイベント等における人数制限等を緩和することができる制度

(飲食店等の利用、会食等)

- 営業時間の変更を要請した時間以降、飲食店等にみだりに出入りしないこと
(法第31条の6第2項)
- 飲食店等の利用の際、同一グループの同一テーブルでの会食は4人以内とすること
(法第24条第9項)

ただし、認証店において「対象者全員検査」制度を活用し、全員の陰性の検査結果を確認した場合は、同一グループの同一テーブルでの5人以上の会食も可とする

- 感染対策が徹底されていない飲食店等の利用は自粛すること(法第24条第9項)

(その他)

- 「三つの密」の回避、人と人との距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの手指衛生をはじめとした、基本的な感染防止対策を徹底すること(法第24条第9項)
- 感染に不安を感じる者は、検査を受けること(法第24条第9項)

3. 事業者向けの要請

(1) 飲食店及び飲食に関連する施設への要請

| 施設の種類 (施行令第11条) | 内 訳 | 対 応 |
|--------------------|---|---|
| 集会場等 (第5号等) | 食品衛生法上における飲食店営業許可を受けている 結婚式場等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 「徹底点検 TOKYOサポート」プロジェクトにおける「感染防止徹底点検済証」の交付を受け、かつ、これを店頭に掲示している店舗 <ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の①又は②のいずれか一方とすること(法第31条の6第1項) <ul style="list-style-type: none"> ①営業時間 : 5時から21時までの間 酒類の提供・持込 : 11時から20時までの間 ②営業時間 : 5時から20時までの間 酒類の提供・持込 : 行わない ・ 同一グループの同一テーブルへの案内を4人以内とすること (法第24条第9項) |
| 遊興施設 (第11号) | 食品衛生法上における飲食店営業許可を受けている キャバレー、ナイトクラブ、ダンスホール、スナック、 バー(接待や遊興を伴うもの)、パブ等の施設 | <ul style="list-style-type: none"> ただし、「対象者全員検査」制度を活用し、全員の陰性の検査結果を確認した場合には、同一グループの同一テーブルへの5人以上の案内を可とする ・ 認証基準を適切に遵守して営業すること(法第24条第9項) ● 上記点検済証の交付を受けていない又は掲示していない店舗 <ul style="list-style-type: none"> ・ 以下のとおりとすること(法第31条の6第1項) <ul style="list-style-type: none"> 営業時間 : 5時から20時までの間 酒類の提供・持込 : 行わない ・ 同一グループの同一テーブルへの案内を4人以内とすること (法第24条第9項) |
| 飲食店 (第14号) | 飲食店(居酒屋を含む。)、喫茶店、 バー(接待や遊興を伴わないもの)等 (宅配・テイクアウトサービスは除く。) | <ul style="list-style-type: none"> ● カラオケ設備を提供している店舗 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の密を避ける、こまめな換気を行う、マイク等の消毒を行うなど、基本的な感染防止策を徹底すること (法第24条第9項) ● 上記の店舗に共通の要請 <ul style="list-style-type: none"> ・ 業種別ガイドラインの遵守を要請(法第24条第9項) |

3. 事業者向けの要請

(2) その他の施設への要請①

| 施設の種類 (施行令第11条) | 内 訳 | 対 応 |
|--------------------|--|--|
| 劇場等 (第4号) | 劇場、観覧場、映画館、プラネタリウム、演芸場 等 | <ul style="list-style-type: none"> ● イベントを開催する場合、規模要件に沿って施設を使用すること（法第24条第9項） （「3（3）イベントの開催制限」参照） ● カラオケ設備の提供を行う場合、利用者の密を避ける、こまめな換気を行う、マイク等の消毒を行うなど、基本的な感染防止策を徹底すること（法第24条第9項） ● 長時間に及ぶ飲食・飲酒など、感染リスクの高い行動を避けることについて、利用者への注意喚起を図ること（法第24条第9項） ● 新型インフルエンザ等対策特別措置法施行令第5条の5に規定される以下の各措置を実施すること（法第31条の6第1項） <ul style="list-style-type: none"> ・ 従業員に対する検査の勧奨 ・ 入場をする者の整理等 ・ 発熱等の症状のある者の入場の禁止 ・ 手指の消毒設備の設置 ・ 事業を行う場所の消毒 ・ 入場をする者に対するマスク着用周知 ・ 感染防止措置を実施しない者の入場禁止（すでに入場している者の退場を含む） ・ 施設の換気 ・ 会話等の飛沫による感染の防止に効果のある措置（アクリル板設置又は利用者の適切な距離の確保等） ● 業種別ガイドラインを遵守すること（法第24条第9項） |
| 集会場等 (第5号) | 集会場、公会堂、葬儀場 等 | |
| 展示場 (第6号) | 展示場、貸会議室、文化会館、多目的ホール 等 | |
| 商業施設 (第7号) | 大規模小売店、ショッピングセンター、百貨店 等 | |
| ホテル等 (第8号) | ホテル、旅館（集会の用に供する部分に限る。） | |
| 運動施設 (第9号) | 体育館、スケート場、水泳場、屋内テニスコート、柔剣道場、ボウリング場、野球場、ゴルフ場、陸上競技場、屋外テニスコート、ゴルフ練習場、バッティング練習場、スポーツクラブ、ホットヨガ、ヨガスタジオ 等 | |
| 遊技場 (第9号) | マージャン店、パチンコ屋、ゲームセンター、テーマパーク、遊園地 等 | |
| 博物館等 (第10号) | 博物館、美術館、科学館、記念館、水族館、動物園、植物園、図書館 等 | |
| 遊興施設 (第11号) | 個室ビデオ店、個室付浴場業に係る公衆浴場、射的場、勝馬投票券発売所、場外車券売場、ネットカフェ、マンガ喫茶 等 | |
| 商業施設 (第12号) | スーパー銭湯、ネイルサロン、エステティック業、リラクゼーション業、銭湯、理容店、美容店、質屋、貸衣装屋、クリーニング店 等 | |
| 学習塾等 (第13号) | 自動車教習所、学習塾 等 | |

3. 事業者向けの要請

(2) その他の施設への要請②

| 施設の種類 (施行令第11条) | 内 訳 | 対 応 |
|--------------------|------------------|--|
| 学校 (第1号) | 幼稚園、小学校、中学校、高校 等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 以下の事項を徹底すること（法第24条第9項） <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な感染防止策の実施 ・ 大学等においては、部活動、課外活動、学生寮における基本的な感染防止策、飲み会等に関する学生等への注意喚起 ・ 大学等においては、発熱等の症状がある学生等が登校や活動参加を控えるよう周知すること ・ 大学等においては、感染防止と面接授業・遠隔授業の効果的実施等による学修機会の確保の両立に向けて適切に対応すること ● 大学等においては、部活動や課外活動における感染リスクの高い活動を制限又は自粛すること（法第24条第9項） ただし、「対象者全員検査」制度等を活用し、全員の陰性の検査結果を確認した場合には、部活動や課外活動における感染リスクの高い活動を可とする |
| 保育所等 (第2号) | 保育所、介護老人保健施設 等 | |
| 大学等 (第3号) | 大学 等 | |

3. 事業者向けの要請

(3) イベントの開催制限

- イベント（※1）主催者等は、以下の規模要件に沿ったイベントを開催すること（法第24条第9項）

| 施設規模 イベント 類型 | 施設の収容定員（※3） | | | |
|------------------------------|-----------------|---|---|-------------|
| | 5,000人以下 の施設 | 5,000人超 ～10,000人の施設 | 10,000人超 ～20,000人の施設 | 20,000人超の施設 |
| 大声なしの イベント の場合 （※2） | 収容定員まで 入場可 | 5,000人まで入場可 | | |
| | | 「感染防止安全計画」（※4、※5）を策定した場合 ⇒ 収容定員まで入場可 | ① 「感染防止安全計画」（※4、※5）を策定した場合 ⇒ 20,000人まで入場可 ② ①に加え、「対象者全員検査」制度を活用し、 20,000人を超える人数について陰性の検査結果を 確認した場合 ⇒ 収容定員まで入場可 | |
| 大声ありの イベント の場合 （※2） | 収容定員の半分まで入場可 | | 5,000人まで入場可 | |

※1 「イベント」には遊園地やテーマパーク等を含む

※2 大声ありのイベント・・・観客等が、通常よりも大きな声量で、反復・継続的に声を発することを積極的に推奨するイベント又は必要な対策を十分に施さないイベント

大声なしのイベント・・・上記以外のイベント

※3 収容定員が設定されていない場合

・大声ありのイベント：十分な人と人との間隔（できれば2m、最低1m）を確保

・大声なしのイベント：人と人が触れ合わない程度の間隔を確保

※4 感染防止安全計画を策定できるのは、「大声なし」のイベントのみ

※5 参加人数が5,000人超のイベントに適用

- 接触確認アプリ等を活用すること（法第24条第9項）
- 業種別ガイドラインを遵守すること（法第24条第9項）

3. 事業者向けの要請

(4) 職場への出勤等

- 職場での基本的な感染防止策を徹底すること（法第24条第9項）
- 職場への出勤について、業務継続の観点からも、出勤者数の削減の目標を定め、テレワークの活用や休暇取得の促進等の取組を推進すること（法第24条第9項）
- 国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務を行う事業者及びこれらの業務を支援する事業者（※）においては、事業の特性を踏まえ、BCP（事業継続計画）を策定済みの場合は、その再点検を行い、未策定の場合は、早急に策定するよう協力を依頼

※国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務を行う事業者及びこれらの業務を支援する事業者

例：医療関係者（病院、薬局等）

生活支援関係事業者（介護老人福祉施設、障害者支援施設等）

インフラ運営関係（電力、ガス等）

飲食料品供給関係（飲食料品の流通・ネット通販等）

生活必需物資供給関係（家庭用品の流通・ネット通販等）

金融サービス（銀行、クレジットカードその他決済サービス等）

物流・運送サービス（鉄道、バス、航空、郵便等）

等